

平成24年度八重山群島病害虫発生予報第4号(7月予報)

I 7月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	30	40
平 年 並	40	30	30
低い(少ない)	20	40	30

(平成24年6月22日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	29.5	32.0	27.6	130.4	264.5

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 7月の発生予報および防除上の注意事項

1 水稻(二期作)

- 二期作におけるもみ枯細菌病の防除対策
 - a 例年、もみ枯細菌病は二期作に多くみられる。
 - b 6月中旬の調査の結果、一部本田(一期作)で本病の発生がみられた。
 - c 本病は種子伝染するので、発病田から採取した籾は種籾として使用しない。
 - d 塩水選により不稔籾を除去するとともに、種子消毒を徹底する。
 - e 育苗期の高温多湿を避けるため、育苗施設の換気を十分に行う。
 - f 生育不揃いもしくは腐敗している苗は罹病している可能性があるので本田に持ち込まない。

- 休閑期におけるスクミリンゴガイの防除対策
 - a 例年、スクミリンゴガイの被害は二期作に多く見られるため、休閑期の防除が重要である。
 - b 貝および卵塊は見つけ次第捕殺する。なお捕獲するときにはゴム手袋を着用する。
 - c 貝の破碎のために耕耘深度は浅くし、土の硬い時期に通常のおよそ半分の速度で耕耘すると効果的である。
 - d 取水口に金網(5mm以下)を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ。
 - e 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所をつくらない。
 - f 一期作において発生が著しかった地域では、生産部会等で一斉防除する。

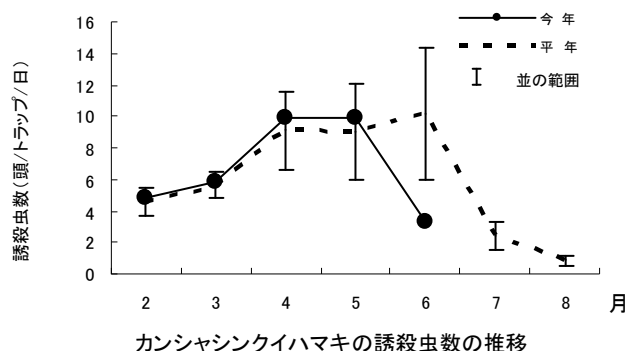
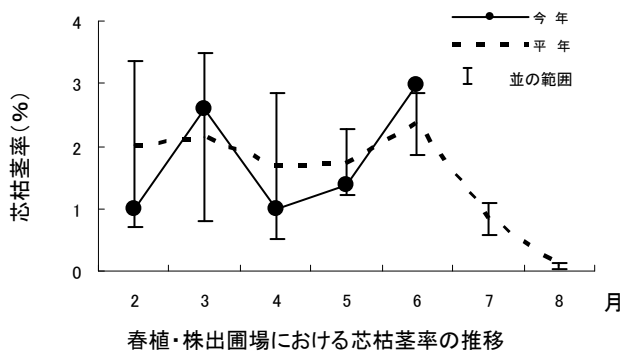
2 さとうきび

(1) カンシャシクイハマキ

発生程度：並

a 6月下旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は3.0%(前年2.4%、平年2.4%)と平年よりやや高かった。

b 6月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.4頭(前年3.6頭、平年10.2頭)と平年よりやや少なかった。



<防除上注意すべき事項>

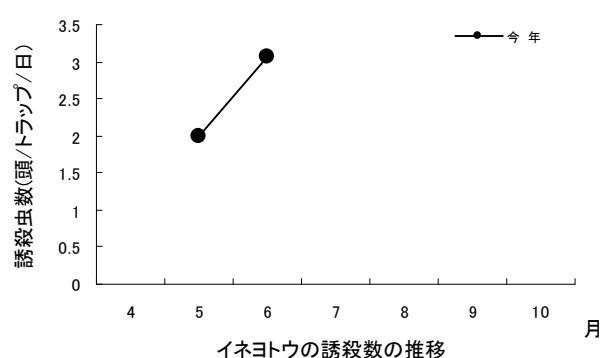
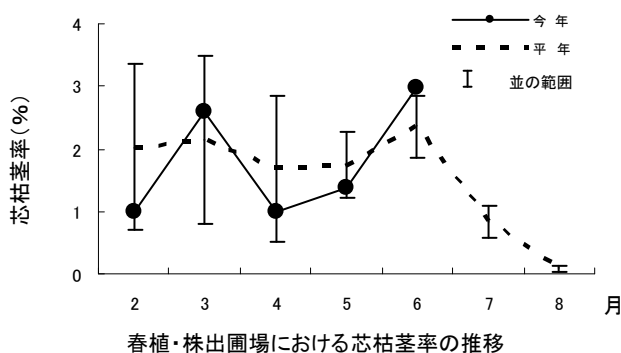
- ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨウの防除対策

a 6月下旬の調査の結果、春植・株出圃場における芯枯茎率は3.0%(前年2.4%、平年2.4%)と平年よりやや高かった。

b 6月のイネヨウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.1頭であった。

c 与那国島において、イネヨウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。

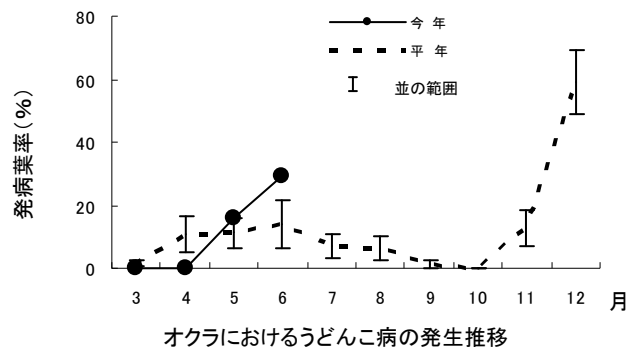
- イナゴ類の防除対策
 - a 6月中旬の調査の結果、与那国島の圃場でイナゴ類(ヒゲマダライナゴ、タイワンツチイナゴ)による葉の食害がみられた。また、周辺雑草で幼虫の多発生がみられた。
 - b 気象予報によると、向こう1か月の気温の高い確率、降水量の少ない確率がともに40%と予想されており、イナゴ類の発生を助長すると考えられる。
 - c 発生源となる圃場及び周辺の除草を徹底する。
 - d タイワンツチイナゴは4齢以降にさとうきびの葉を加害するようになるので、発生圃場では早期に薬剤防除を行う。
 - e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第2号参照(平成24年度4月27日付)。

3 マンゴー

- 細菌性病(枝枯細菌病)の防除対策
 - a 折損等の傷から菌が侵入し発病することから防風対策を図る。
 - b 罹病した部位は速やかに施設外に持ち出し、焼却等の処分を行う。
 - c 罹病枝を剪定した後の剪定器具の消毒を徹底する。
- チャノキイロアザミウマの防除対策
 - a 6月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.1頭未満(前年1.4頭、平年2.3頭)と平年よりやや少なかった。
 - b 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
 - c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

4 オクラ

- (1) うどんこ病
 - 発生程度 : やや多
 - 6月下旬の調査の結果、発病葉率は29.0%(前年1.0%、平年14.0%)と平年よりやや高かった。



<防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。